

2023 年度学校関係者評価とりまとめ報告書

学校法人三井学園武蔵浦和日本語学院

学校関係者評価委員会

令和 6 年 8 月 2 日

学校関係者評価委員は各区分ごと 1 名、計 5 名となっています。

区分
業界関係者、保護者、評議員、卒業生、地域住民

1. 参考資料

2022 年度事業報告書（重点目標含む）、自己評価とりまとめ報告書ほか

2. 自己評価検証

自己評価とりまとめから検証を行い、内容については適切との意見を取りまとめた。一方で改善については以下のような意見を取りまとめた。

（1）学校の理念・使命・ビジョンについて

- ・将来ビジョンを明確にして学生・保護者にも広く周知するようにすべきである。
- ・進学への評価が高いと思われ、SNS 等でさらに広報していく体制づくりをすべきである。

（2）組織運営・人事システムについて

- ・規定類の整備をさらに進めるべきである。
- ・情報システムを進化させ業務の効率化を図り、学校運営の質を高めるべきである。
- ・ハラスメント規程の周知等に力を入れるべきであると思われる。

（3）学生指導について

- ・先端的な知識を教えられるように教員の研修にも力を入れるべきである
- ・キャリア教育も含めた進学指導も行うべきである。
- ・卒業生を追跡調査し、当学校の継続的な評価を確認する仕組みを作るべきである
- ・学生アンケートを継続して行いフィードバックから課題を明らかにして改善すべきである。

（4）日本語指導について

- ・日本社会に出て困らないコミュニケーションの力をつける工夫を考える必要がある。

- ・宿題、予習を確実にできるよう指導すべきである。
- ・試験対策について効果がわかるように指標を作るべきである。
- ・新型コロナウイルス感染症の制限がなくなっても、オンラインでも対面と同様の効果を得られる指導法の研究を進めるべきである。

(5) 学生からの評価について

- ・新興国出身学制では授業についていけない学生もいるため、さらなる工夫が必要。

3. 重点目標の取り組みの検証

2023年度に掲げた重点目標は以下のとおりである。

- (1) 進学指導の強化
- (2) 教務力の強化
- (3) マーケティング活動・募集の強化

(1) 進学指導の強化

大学院進学および大学進学について強化し一定程度結果が出ていると思われる。一方で、進学試験の前提である日本語の強化をさらに進めるべきである

(2) 教務力の向上

アクティブラーニングなどの最新教授法を研究しつつ講師研修に生かしている。

準備過程の社会科学系、理化学系教科についても講師研修を進めていくべきである。

(4) マーケティング・ブランディング強化

進学指導の強化、教務力の向上等の施策をホームページ、SNS等で発信している。その結果、徐々に当校の価値も上がりブランディングにつながっているものと思われる。

引き続き広報を強化すべく、広報戦略を策定し広報を実施していくべきである。

ホームページの改修も検討すべき時期に来ているのではないかと。

以上